

「CBDCフォーラム」への 参加説明会資料

2023年3月
日本銀行決済機構局



1. パイロット実験の全体像

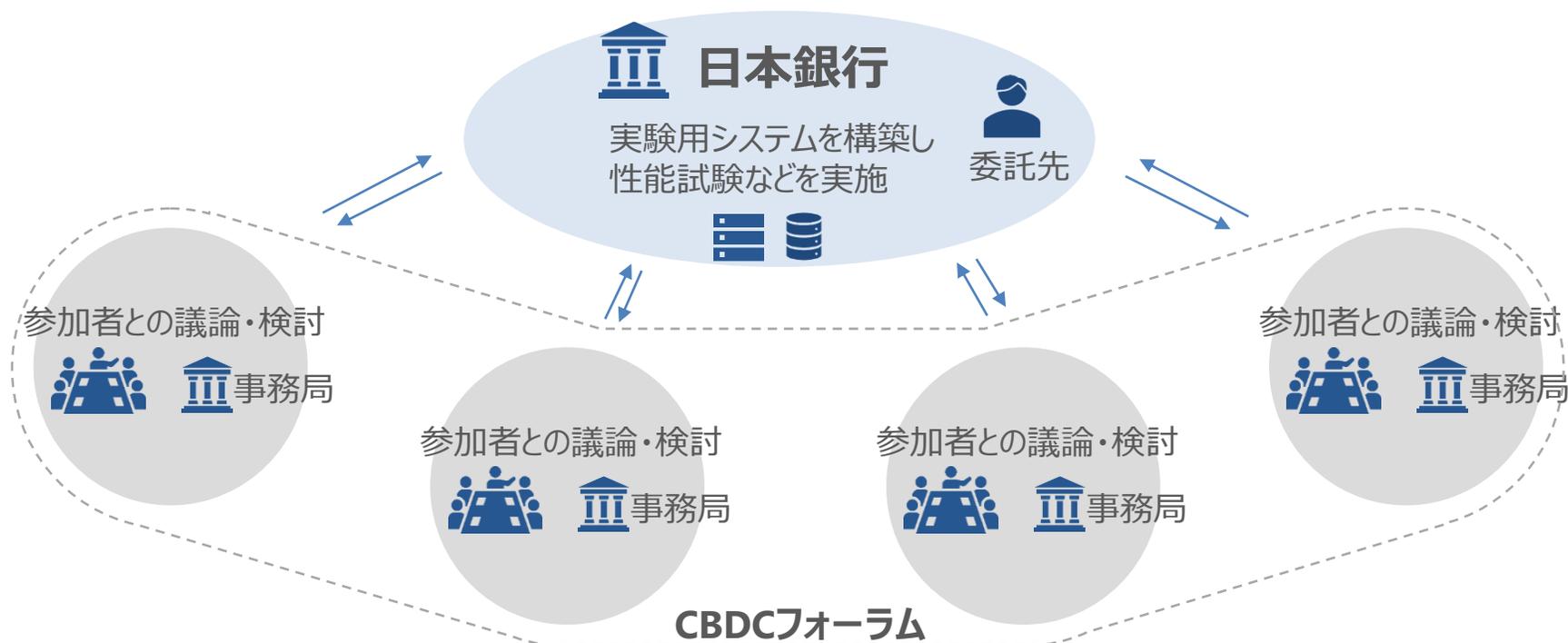
1. 実験用システムの構築と検証

CBDCシステムのエンドツーエンドでの処理フローを確認する観点から、日本銀行が実験用システムを構築し、性能試験等を行う。

2. 民間事業者との議論・検討

民間事業者の中からCBDCフォーラムへの参加者（以下、「参加者」）を募集し、外部システムとの接続に向けた課題や対応策、主にユーザーとの接点において必要となる課題や技術・機能、追加サービスやエコシステムのあり方などに関して幅広く議論・検討を行う。

1. 2.の検討成果は、必要に応じてお互いの作業にフィードバックすることを想定



2. CBDCフォーラムの概要

■ 議論・検討の方法

- CBDCフォーラム（以下、「フォーラム」）では、具体的なテーマ（次ページ以降）に応じて、参加者との間で、主に以下の2つの方法で議論・検討を進めていく。

1

事務局（日本銀行）が提示したテーマについて、指定された参加者が原則交替でプレゼンタ、ディスカッサントを務める。また、モデレータを務める参加者は、会議の最後に議論の内容を取り纏める。テーマに応じて関与する参加者は異なりうる。

2

事務局が各テーマの趣旨等に関して基調となるプレゼンを随時行う、あるいは、事務局が提示したヒアリング事項に対して、広く参加者が回答もしくはプレゼンを実施。

■ 運営方法

- 議論の活性化および運営の円滑化の観点から、議論・検討テーマの関連性に応じたワーキンググループを設けることを検討中。
 - 1つのワーキンググループは、10社～20社程度の参加者で構成するイメージ。当初は数グループを組成するが、議論の進展に応じて、新たなグループを組成する可能性。
- 対面の会合を基本に、Web形式の会合も活用しつつ、1つのワーキンググループの中では、当初は月数回程度、毎回1～2時間程度で議論を行う予定。
 - ワーキンググループや議論・検討テーマにもよるが、参加者の決定後、7月下旬頃に初回会合（運営等に関する事務局説明）を開催し、8月下旬以降から当初は月数回程度開催していくイメージ（フォーラムの進捗状況や参加者からの意見等を踏まえ、変更していく可能性）。

2. CBDCフォーラムの概要

■ 情報共有

- フォーラムの他のワーキンググループでの議論の状況は日本銀行から随時情報共有するほか、実験全体やテーマごとの議論・検討の進捗状況について、適宜、参加者全体で共有・連携する機会を設けることも検討中。
- 実験の検証状況や参加者との議論・検討の概要については、どの個別の参加者の方のご意見、ご発言かが特定されないように配慮しつつ、適宜のタイミングで公表していく。
 - － フォーラム外への情報共有もしっかりと行うことから、フォーラムに参加するか否かは、将来の中央銀行デジタル通貨に関連する案件への立場や関与の有利・不利に繋がるものではない。

■ 議論・検討テーマ

- 具体的な議論・検討テーマのイメージ（現時点の案）については次項のとおり。
 - － 状況や議論の進捗に応じて、随時追加・削除する。特に、前ページ「議論・検討の方法」の2に挙げた事務局から提示するヒアリング事項はここで挙げたものに限られない。
 - － なお、現時点での議論・検討のテーマとして幅広い論点をリストアップする趣旨であり、将来の制度設計に関して何等かの前提を置くものではない。

3. 議論・検討テーマ

● 基本的な機能にかかる事務フロー

- 各種事務フロー（発行・還収、払出・受入、送金はもとより、口座開廃、逆引き送金等の付加的事務も含む）への意見、エンドツーエンドでの事務フローに関する既存事務への影響、その他各種リテール取引運用（異例時対応、窓口業務等）への影響に関する考察。

● 現金とCBDCの交換

- 現金とCBDCの交換方法のありかた（ATMでの交換や窓口での交換を想定した場合の事務フロー、既存の事務や運用の活用可能性等）に関する留意事項の洗い出し、解決策の提案。

● 勘定系システムとの接続

- CBDC払出・受入業務を想定し、金融機関の勘定系システム（このほか、データウェアハウス等の情報系システムや営業店システム等の事務系システムを含む）とCBDCシステムとを接続する際の、留意事項の洗い出し（運用面、技術面、接続仕様に関する留意事項等）、解決策の提案。

● 民間決済インフラとの接続

- CBDCシステムと民間決済インフラを接続すると想定した際の、メリット・デメリットの整理、留意事項の洗い出し（運用面、技術面、接続仕様に関する留意事項等）、解決策の提案。

● 既存のインターネットバンキングアプリ等との連携

- 金融機関の既存のインターネットバンキングアプリ等を通じてCBDCの取引（払出・受入、送金、残高照会等）を可能とする場合の、既存システムとCBDCシステムとの連携にかかる留意事項の洗い出し（運用面、技術面、接続仕様に関する留意事項等）、解決策の提案。

● 民間リテール決済システムにおけるベストプラクティス

- 台帳部分等の設計・実装に関して、性能面を考慮した技術面でのベストプラクティスの提案。
- 可用性・信頼性面を考慮した技術面、事務運用や体制面でのベストプラクティスの提案。

3. 議論・検討テーマ

● KYC、AML/CFTの実施

- 既存の資金決済におけるKYCの方法やその留意事項の整理、CBDCの事務フローや特性を踏まえたKYCの高度化に向けた技術的な方法や事務運用面の提案。
- 既存の資金決済におけるAML/CFTの方法やその留意事項の整理、CBDCの事務フローや特性を踏まえたAML/CFTの高度化に向けた技術的な方法や事務運用面の提案。

● 認証・認可

- 既存の資金決済における認証・認可の方法やその留意事項の整理、CBDCの事務フローや特性を踏まえたユーザ認証・認可の高度化や取引認証の高度化のための技術的な方法や事務運用面の提案。

● エンドポイントデバイス

- スマートフォンを考慮した場合、CBDCの事務フローや特性を踏まえた、技術面、事務運用面等での留意事項の整理、解決策の提案。
- カード型デバイスを考慮した場合、CBDCの事務フローや特性を踏まえた、技術面、事務運用面等での留意事項の整理、解決策の提案。
- 店舗決済端末について、CBDCの事務フローや特性を踏まえた、技術面、事務運用面等での留意事項の整理、解決策の提案。
- ウォレットアプリ・店舗決済端末等の普及方法に関する提案。

● UI/UX（ユーザーインターフェース、ユーザーエクスペリエンス）、アクセシビリティ

- ウォレットアプリ・店舗決済端末等におけるUI/UXデザインのあり方に関する提案。
- 高齢者や障害のある人を含むすべての利用者がCBDCを利用しやすくする方策に関する提案（アクセシビリティ）。

● 電子マネー等との交換容易性

- 既存の民間電子マネー等（現金・預金以外）とCBDCの交換を行う際の技術面や事務運用面での留意事項の整理、解決策の提案。

3. 議論・検討テーマ

- **CBDCのビジネス活用（追加サービスのあり方）**
 - 「デジタル社会にふさわしい」決済システムのコンセプトの具体化。
 - 追加サービスの類型とユースケース（プログラマビリティ、追加サービスにかかる情報の利活用に関する議論を含む）、役割分担、等。
- **追加サービスにかかるCBDCシステムの外部連携**
 - 追加サービスにかかるオープンAPI、SDK・サンドボックス機能の提供、「組み込み型（embedded）CBDC」のコンセプト、等。
- **CBDCエコシステムのデザイン**
 - サービス基盤としてのCBDCに求められる仕様、追加サービス提供事業者（ディベロッパー）のコミュニティ運営、エコシステムのサステナビリティ（APIのアップデートやメンテナンスなど）、等。
- **アカウント型以外の代替的なデータモデルの検討**
 - 代替的なデータモデルの選択肢（UTXO等）。
 - 各データモデルの比較（スループットやレイテンシなどの処理性能、開発・運営負担、環境負荷、オフライン決済との親和性、プログラマビリティの実装容易性、等）。
 - アセットトークナイゼーションとCBDC（アセットトークナイゼーションとCBDCの関係、DLT基盤との相互運用性、等）。
- **オフライン決済**
 - 社会的ニーズと有用性（ユニバーサルアクセス、レジリエンス、等）。
 - 技術的な選択肢の比較（データモデル、偽造・二重支払い等のリスク、利便性、等）。
 - オフライン決済とオンライン決済の連携。

4. 参加者等

参加者（法人単位）

- 参加者の総計は、**数十社程度**をイメージ。一部の参加者は日本銀行が指定する複数のワーキンググループに参加・関与していただく可能性もある。
 - 民間事業者の技術や知見の活用という実験の趣旨に鑑み、参加者は**法人を対象**とする（個人は原則として対象としない）。
 - 具体的な知見・技術の提供を通じて積極的に議論・検討に貢献していただくというフォーラムの開催趣旨に鑑みて、業界団体からの参加は想定していない。
- フォーラムは、**概ね年単位**でワーキンググループに区切りを設ける。そのタイミングでの出入りを除いて、選ばれた参加者は継続的にフォーラムに関与していただく予定。

想定される担当者（実務者）

- 各参加者（法人単位）から、それぞれご**担当いただく議論・検討テーマに関連して、業務企画、決済企画、システム企画または決済関連研究開発などの経験が豊かな実務者**（少なくとも数年程度の実務経験を想定。原則、**議論・検討テーマごとに各1名**）をご登録いただき、継続して参加していただく想定。
 - 小規模なスタートアップ企業などで、経営レベルの方が直接、実務や技術を担当されている場合を除き、経営レベルの方の参加は原則として想定していない。
 - ワーキンググループでの各テーマの議論・検討の進捗等をみながら、日本銀行側から、よりテーマに関連した専門性や知見を有する方のご登録をお願いする可能性がある。

5. 費用・情報管理等

■ 費用

- 参加者は、日本銀行に対して参加費等を支払う必要はない。ただし、フォーラム参加にあたって必要となる実費（交通費、Web会議のための通信料等）は自ら負担する。
 - 議論・検討を行うための作業端末等は自ら用意。
 - なお、実験用システムは日本銀行が自費で構築する。参加者が自前の実験用システムを構築することは不要。

■ 情報管理

- 参加者はフォーラムの過程で日本銀行や他の参加者から得た情報等を外部に開示したり目的外に利用することは不可。
 - 日本銀行においても、参加者から提供された情報等については、厳正に管理を行う。

■ 規約への同意

- 参加にあたっては、こうした費用負担や情報管理の取扱い等について規定した規約への同意が条件となる。

6. 募集プロセス

■ 募集プロセスの概要

- 今後の募集プロセスについては、本年4月3日（月）から4月28日（金）正午までを公募期間とし、その後、日本銀行において審査のうえ、6月入り後に審査結果を連絡。その後、順次規約締結作業を行い、7月中を目途に参加者（法人単位）の一覧を公表予定。
 - － なお、プロジェクト管理支援・技術コンサルティング等にかかる委託先（現在、調達手続を実施中）は参加者となることはできないほか、実験用システム構築にかかる委託先選定（7月以降を予定）においては、入札の公平性を期する観点から、参加者となった法人に対して入札制限を付す予定であるため、参加者への応募にあたってはご留意いただきたい（入札に参加した先については、委託先選定の終了後に必要に応じて参加者の追加募集を検討）。

■ 募集方法

- 日本銀行指定のフォーマットに沿う形で、議論に貢献が可能なテーマやこれに関連した実績（CBDCに関する各種会合への参加や各種論考の公表等）などを記入し、応募者から、メールで提出いただく予定（提出方法は公募期間の開始とともに、日本銀行HPに掲載予定）。

6. 募集プロセス

■ 募集にかかるスケジュールのイメージ

- スケジュールは下図の通り。ただし、今後必要に応じて変更する可能性がある。



■ (参考) 当面のスケジュール

- 2023年中にフォーラムへの参加者や実験用システム構築等にかかる委託先を選定し、順次、参加者との議論・検討や実験用システムの開発を進めていく予定。
- 本説明会の内容へのご質問は3月29日（水）17時までに post.pssd73@boj.or.jp へご連絡いただきたい。